



"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

The service club of the YMCA THE Y'S MEN'S CLUB OF NISHINOMIYA



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB - CHARTERED MAY 17TH, 1948

主題 (2015-2016)

- 国際会長(IP) Mr. Wichian BOONMAPAJORN (Thailand)
"Mission with Faith" 「信念あるミッション(使命・目的)」
- アジア会長(AP) Mr. Edward ONG (Singapore)
"Through love Serve" 「愛を持って奉仕しよう」
- 西日本区理事(RD) 遠藤 通寛(大阪泉北)
「あなたならできる! きっとできる」 "You can do it! Yes, you can!"
副題: -生きる しなやかに さわやかに- Live flexibly and refreshingly-
- 六甲部部長(DG) 進藤啓介(神戸クラブ)
「『YMCAと共に』 「人を育て・地域に仕える」
- 西宮クラブ会長(CP) 浅野 純一
「幸せな気持ちになれるクラブの活動」

★ 2016年3月 西日本区強調ポイント "JWF"
「JWFは皆さまのご厚意によって支えられています。個人やクラブの記念に合わせて献金をお願いいたします」
高瀬稔彦 JWF管理委員長(岩国みなみクラブ)

2016年3月第815号
《69期7号》
Since 5.17.1948

スポンサークラブ
・大阪クラブ
DBC 締結(2007)
・近江八幡クラブ
・広島クラブ

クラブ主役員
会長 浅野 純一
副会長 西山 茂夫
直前会長 山口 吉郎
書記 廣瀬 一雄
書記 山口 吉郎
会計 足立 康幸
会計 岩田 健司
監事 丸山 悦治
担当主事 宗行 孝之介
部Yサユース主査山口吉郎

我らのモットー: 強い義務感を持つ、義務はすべての権利に伴う
To acknowledge the duty that accompanies every right !

今月の聖句

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」
(マタイによる福音書 11章 28節) 廣瀬一雄ワイズ選

2016年3月第一例会ご案内

日時 3月11日(金) 19時~21時
会場: 西宮YMCA保育園3階
ドライバー: 山口(政)ワイズ、濱崎ワイズ

1. 開会点鐘 浅野会長
2. ワイズソング 一同
3. ゲスト・ビジター紹介 浅野会長 山口ワイズ
4. 聖句朗読・食前感謝
5. 会食
6. 十勝ワイズメンズクラブ アピール
「じゃがいもファンド事業について」
十勝クラブ 中村ワイズ、高田ワイズ、池田ワイズ
7. クラブ意見交換会
「今後の東日本震災復興支援活動」
①これからの宮古支援について 馬場(一)ワイズ
②メネット会ライブ準備打ち合わせ 宮地メネット
8. お誕生日のお祝い
9. ワイズニュース 浅野会長
10. YMCAニュース 宗行主事
11. 閉会点鐘 浅野会長

【2月例出席状況】

第1例会(2/12 金)	第2例会(2/26 金)
メン 21名(内 MU 4名)	メン 13名
メネット・コメント 5名	メネット・コメント 3名
ゲスト・ビジター 2名	ゲスト・ビジター 0名
合計 24名	合計 16名
出席率 91.3%	
在籍数 23名	(累計出席率 93.2%)

【お誕生日】

万本敬一メン(3/11)、長井慎吾メン(3/26)
藤原俊夫氏(3/24)

【ファンド・BF累計】2月

ニコニコファンド ¥未確認 累計 ¥20000
Brotherhood Fund (目標 345\$) ¥未確認 累計 ¥15300
東日本大震災 Fund (目標 ¥27600) ¥0 累計 ¥10200
BF使用済み切手 (前期 1k^ダ) 今期 1k^ダ

【会長メッセージ】

浅野会長

3月になりました。現在の暦は前8世紀頃成立した帝政以前の古代ローマを起源としています。最初の頃は、光が差し始める3月が新年の始まりです。冬の1・2月は作物も育たず何もすることがないので、暦は必要とせず、1年は現在の3～12月の10か月間、約300日でした。しかし、人間の活動期間の拡大に伴って1・2月が追加されました。当初の最後の月である2月を28日に設定しました。月名も2か月のずれがあります。セプテンヴァーのセプトはラテン語の7、しかし9月です。先日、岡本の梅林公園に行きました。満開に近い梅を見ると、いよいよ春が来るのだとの思いです。

さて、4年に1度のアメリカ大統領選挙が近づいてきました。秋の大統領選挙では共産党も含めて100名程度が立候補するそうですが、事実上は共和党と民主党の一騎打ちです。その2党の候補者選びが、3月1日の「スーパーテューズデー」で佳境を迎えます。共和党の候補について、昨年では評論家の多くが、世論調査でトップにいるトランプ氏は、いずれ候補者レースから消え去るだろうと、そして本命は未だ後方にいるブッシュ氏だと言っていました。さて、年が明けて候補者レースがスタートしました。トランプ氏が快調に他を引き離してトップを走っています。本命とされたブッシュ氏はあえなく脱落しました。あれよーあれよと言っている間に共和党どころか、11月の大統領選挙まで制してしまうのではないとも言われ始めています。

アメリカの大統領は世界で最も大きな政治力を有しています。平時のアメリカ国内政治では州権が強く、3権分立が厳格で大統領には法案の提出権もなく、意外と大統領の権限は強くはありません。しかしながら、外交では地球を何十回も破壊するだけの核兵器を使用する絶大な権限を持っています。大統領の側には常に核兵器の発射ボタンの入ったブリーフケースを随伴の軍事担当補佐官が持ち歩いています。このブリーフケースの名前の由来は諸説ありますが、「核のフットボール」と呼ばれています。大統領は外出する時にハンカチぐらいは持つでしょうが、財布や鍵は持って出かけません。しかし、大統領のポケットには「核のフットボール」に繋がるカードが入っているそうです(ポケットに入れてなかった大統領もいると言われますが)。

話はそれますが、現代の平和は「恐怖の中の平和」です。「核は使用できない兵器」と言われますが、言うまでもなく一歩間違えば人類を破滅に導きます。最も恐れなければならないのがテロリストの手に渡ることです。まだその段階にありませんが、北朝鮮が核兵器ビジネスをしないのかが最も憂慮

されることです。ソ連が崩壊したとき(1991.12)に連邦内に分散していた核兵器が問題となりました。ソ連の核兵器は15カ国のうち、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、カザフスタンの4か国にありました。当時の週刊誌に山藤章二さんの「国じまい閉店核兵器安売りセール」と、ゴルバチョフ店長が呼びかけている時事漫画がありました。笑いましたが、他方で恐ろしくも思いました。アメリカは莫大な予算を費やしてソ連の核兵器をエリツインのロシアに集約したそうです。そして、米ロ戦略兵器削減交渉を成立させました。

このブリンゲンが出るころには「スーパーテューズデー」の結果は出ていると思いますが、トランプ氏が大統領になったらどうなるのでしょうか、彼なら北朝鮮やシリア問題などに直面してミサイル発射OKのボタンを押しはしないのか、疑心暗鬼が生じるだけなら良いのですが。トランプ氏は日米安保をも激しく批判してもいます。今回のアメリカの大統領選挙には大きな関心を持たざるをえません。

【ワイズニュース】

浅野会長

- (1)ポートクラブ主催・復興支援凧揚げ大会
3月5日(土) 10:00 須磨海岸(JR須磨駅南)
- (2)六甲部評議会 3月5日(土) 14:00
芦屋ホテル竹園 17:45 懇親会
- (3)宝塚クラブ主催・復興支援凧揚げ大会
3月11日(金) 14:00 阪神自立の家
- (4)次期会長主査研修会 3月12日(土)～13日(日)
ホテル新大阪コンファレンスセンター
- (5)西宮クラブ・メネット・チャリティジャズライブ
3月19日(土) 18:30 開演 賀川記念館
- (6)西宮メネット東北支援訪問
3月28日(月)～31日(木) 28日 仙台泊
29日 宮古泊 30日 盛岡泊
- (7)大阪・土佐堀クラブ65周年記念例会
4月2日(土) 11:00～15:00 KKRホテル大阪
1部 記念式典、2部 記念講演「今、関西で何が起きているのか」 蔭山秀一氏(関西経済同友会幹事)、3部 記念祝宴 大阪城公園でのお花見 登録費 10,000円
- (8)六甲山に集まろう 4月16日(土)
六甲山YMCA 主催:中西部 六甲部等共催
10:00～12:00 作業(1)
13:00～17:00 作業(2) 17:00～ 交流会
昼食代 1,000円 交流会 3,000円
(バーベキューパーティー) 時間内随時参加
- (9)ポートクラブ・東日本支援チャリティコンサート
4月16日(土) 14:00 神戸聖愛教会 1,500円

【第一例会報告】

ドライバー藤原ワイズ、三島ワイズ

日時、場所：2月12日（金）19時～21時

西宮YMCA保育園3階ホール

西宮クラブ2月例会は、「難民問題の現状と課題」をテーマに、(公財)アジア福祉教育財団難民事業本部関西本部の中尾秀一さんをゲストスピーカーにお招きしてお話を伺いました。今月はこれまでにない珍しい机の配置で、会場内に4つの「島」が設けられました。「どんなことが起こるのか？」少しドキドキしながらのスタートでしたが、初めは中尾さんから次のような問題が出されてスタートしました。

「次の例は、“難民”に該当するか？」①火山の噴火(自然災害)から逃れてきた人、②自国が貧しく生活できないので海外へ逃れた人、③国内の内戦が激化したため海外へ逃れた人、④海外留学中に自国で政変があり、帰国すると迫害される恐れがあるのでそのまま留学先の国にとどまっている人、等々、いくつかの例が挙げられましたが参加者は皆、頭をひねって悩みました。回答の前に1951年に定められた難民条約にある「難民」の定義が示されました。「人種、宗教、国籍、政治的意見やまたは特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいると迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた人々。」この定義に当てはめると「難民」にあたるのは④のみで、①は避難民・被災者、②③は(単なる)移民になるとのことでした。また、難民の多くは若者や子どもで、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の統計によると900万人の難民の内の51%が18歳未満、46%が18~59歳ということでした。続いて、「今すぐ“難民”として逃げなければならない状況になった時に何を持って逃げるか。」との問題が出されました。この問題は、最初にセットされたそれぞれの「島」で討議しました。「衣類」「テント」「お金」「食料」「水」「貴金属」等々、様々なものが挙げられましたが、実際の難民は殆ど何も持たず(持つような財産もない人が殆ど)に逃げ出しているという現状も改めて伺いました。同時に出された問題は、「2つの袋に入ったお米、それぞれの重さは？」というものでした。なかなか正解はできなかったのですが、ここから難民の食糧事情を伺い、生きるために必要な量は確保されているものの、ほとんどが主食と豆類で栄養確保までは難しい状況であることなども伺う事が出来ました。このような難民の恒久的解決としては、自発的帰還(自国へ帰国)、庇護国定住(避難国への定住)、第三国定住(避難国以外の国への定住)の3つがあるの

だそうですが、解決に至るまでの難民キャンプでの平均滞在期間は17年にもなるということでした。そのような中で、日本が70年代後半から受け入れてきたインドシナ難民が1万人強。81年に加入した難民条約によって政府が認定して受け入れた条約難民が660人。ミャンマーからタイやマレーシアなどに避難した後、日本に来るといったような第三国定住難民が105人と非常に少ない現状も伺いました。地理的に遠いことと共に、日本語が難しく、なかなか会話が出来ないために定住しても十分な収入を得られる仕事に就けないということも大きな理由だということでした。最後に中尾さんから、この兵庫県は、難民を受け入れた当初、姫路に難民受け入れの施設が置かれたことや、神戸、姫路、尼崎、近隣の八尾など、言葉の壁がある中でも比較的仕事に就きやすい製造業の小さな町工場がたくさんあるため、難民が多く暮らしているのでぜひ仲良くしてあげて欲しいというメッセージを伺いました。新しい気づき、学びをいただいた貴重な時間でした。

お話の後、3月例会について、十勝クラブより2名参加のリクエストが来ていること、東北支援の今後について検討する予定であるので考え、意見を準備して欲しいとの報告、依頼。また、万本メンが西宮クラブ次期会長に決まったことの報告があり第一部を終了しました。

第二部は、恒例の「金豚」においてゲストを交えて食事をし、懇談のひと時を過ごしました。それぞれのテーブルで、難民の話、東北の話などそれぞれのテーブルで様々な話題が語られ、第一部と共に多い時間を過ごす事が出来ました。

出席者は、第一部が、浅野メ、岩田メ、岡田メ、小野メ、河野メ、長井メ、馬場(一)メ、濱メ・メット、濱崎メ、廣瀬メ・メット、藤原メ、万本メ、三島メ、山口(政)メ・メット、山本メ・メット、宮地特別メット、ゲストスピーカー：中尾秀一、ゲスト：山城みなみ(西宮YMCAスタッフ)

第二部より、馬場(貴)メ、足立メが合流参加。



【YMCA ニュース】

宗行 孝之介ワイズ(連絡主事)



暦の上では春ですがなんだかよくわからない季節の移り変わりですね。巷ではインフルエンザが猛威をふるっていますがみなさまお変わりございませんか？

さて、早いもので年度末を迎えようとしております。おかげさまで神戸YMCA、西宮YMCAともに大きな事故もなく、財政的には依然として厳しいものがありますが皆さまのお支えと神様のお導きによってここまでできたことは感謝でございます。

さて、私事ですが先日お休みを頂戴して、久しぶりに家族旅行をさせてもらいました。ローマでかの地の礼拝に与ることが第一の目的でしたが、これは首尾よく果たすことができ、長年の夢が叶いました。あとはかつて訪れた場所を回っていたのですが、35年ぶりに訪れたパドヴァで大きな衝撃を受けました。パドヴァはヴェネツィアから電車で30分ですから西宮からみた明石みたいなものです。ヨーロッパの古い都市は概ね中央駅は町の中心ではなく、おへそのような感じに位置していることが多いのですが、ここも例に漏れません。日中はそれほど目立たないのですが、夕方になると治安は急激に悪化し、結構目付きの悪いのが徒党を組んで徘徊しており、とても女性が一人では歩けない状態に一変します。ところがクルマで5分ほどの旧市街(城壁に囲まれている内側)では老若男女が真夜中まで笑いさざめいています。日中とそれ以外、持っている人と持たない人、豊かな地域とそうでない地域、のコントラストが圧倒的です。夜中に徘徊している人たちは明らかに非ヨーロッパ系が多く、中には難民と思いき人たちも多くなります。この傾向はローマでもミラノでもあるのですがアドリア海に近いからでしょうか、とくに顕著に感じられました。明らかに定職につけない、明らかに住居のない、明らかに地域社会から受け入れられていないこの集団に対し私たちはどう関わっていけばよいのでしょうか？安倍内閣は「一億総活躍社会」と題してちゃっかりソーシャルインクルージョン(社会的包摂と訳されますが)の概念を取り込んだりしていますが、本当に私たちはさまざまな状況下にある人たち全てを包摂することができるのでしょうか？綺麗ごとかもしれませんがYMCAは「奪い合えば足りない、分かち合えばあまる」ということを事業としてますます取り組んでゆくことが出来るようにさらに努力したいと思う、そんな経験をさせてもらった旅でした。

【リーダー会便り】

3 回生 宮脇 知紘リーダー

キッズは来月のキャンプでの登山に向けて子どもたち自身のペースを把握するためのプログラムでした。新神戸からロープウェイで風の丘中間駅まで登り、市ヶ原、再度山を目指して登山をしました。メンバーと目標地点を決めたり、時間を意識したりグループの関わりを大切に、協力しながら活動しました。

ジュニアは再度山に登りました。今回は、メンバー1人1人に役割分担をして協力することを意識しました。時間を計る係や、地図を見る係を決めているグループもありました。グループ全員で登るためにはどうすればいいか話し合い、みんなで目的地を目指す姿がたくさん見られました。

シニアは、住吉からバスで登山口まで行き、そこから六甲山山頂を目指して歩きました。ルートはグループで話し合っ決めてました。雪遊びをしながら楽しく山頂まで登ることができました。以前よりさらに体力が付き、成長を感じられる例会となりました。

【DBC3クラブ交換ブリテン】

「ワイズメンのメンバー」と言
いながら…

広島クラブ 佐伯 博章



ワイズメンズクラブの皆様こんにちは。広島YMCA 上久保総主事様のお勧めで2013年(平成25年)広島クラブに入会した佐伯と申します。ワイズメンズ歴は短いのですが、広島YMCAでの活動は長く、1976年(昭和51年)に車いすの人たちの外出活動お手伝いや車いすお出かけマップ制作ボランティアとしてYMCAの会員部に所属しておりました。思い返せば、さまざまな人々と障害者福祉に関して意見を交わす貴重な時期であったと思います。

活動を通じて得た考え方や人脈はその後の私の生業である建築設計活動に多くの示唆深いものを頂きました。

その後、広島YMCAさんの介護福祉系・看護系専門学校キャンパスの設計を手掛けさせていただき、開設準備室長であった上久保様ほかスタッフ皆様と多くの夢を語りながら施設づくりを行ったことは記憶に新しいところです。

一つのこと(仕事)を長年やっていると、周辺団体の活動も共についてくるものですね。現在、本業の建築設計活動のほかに、障害者や高齢社会の住ま

いをつくる会の NPO 法人の活動や、建築系・福祉系の大学で、障害者や高齢者の住まいや環境づくりの大切さを学生に教えています。

古希を目前に控え、若い時に広島 YMCA でやっていたボランティア活動に勤しみたいと考えておりましたが、逆に年々萬ごとに追われ月例会の出席さえままならない現実です。「ワイズメンズのメンバーです！」と言いながら、何一つ役に立てず心苦しく思っていますが、広島ワイズメンズクラブの先輩諸兄の温かい眼差しのもと、末席に座らせていただいております。新年を迎えワイズメンズクラブ皆様方の一層のご発展をお祈りしている次第です。



EMCはCME。魅力ある例会に仲間を招きましょう。

西日本区 EMC事業主任
小野 勅(とも)紘(くに)(西宮)

【西日本区だより20】

C(意識高揚)はまず出席率に表れます。ノーベル平和賞を受賞されたあのマザー・テレサが「死を待つ人の家」に瀕死の老婆を引きとった時のことです。マザーは死に瀕した老婆の口を脱脂綿で潤しながら、「あなたは、愛されるために生まれてきたのですよ」と励ましました。老婆は微笑を浮かべて「ありがとう」と言って旅立ったそうです。

世の中には必要とされない命なんて一つもありません。どんな人でも、動物でも、植物ですら神様に必要とされて生まれてきたのです。聖書ではこれを、「神様の食卓に招かれた」といいます。象徴的な場面がああ有名な絵画の「最後の晚餐」です。ワイズのメンバーも皆あなたが例会に出席するのを待っています。出席率はクラブの意識は高めます。しかし、私たちの生活は忙し過ぎます。時に例会に出席出来ない場合もあるでしょう。例えばあなたが小学校の入学式を控えた一人娘の父か母だとします。父親には大切な顧客との契約の仕事が舞い込みます。さて、あなたはどのようにするでしょう。入学式を重視し、休みを取り入学式に出るでしょうか。通常、父親は仕事を優先し、母親に入学式への出席を頼むでしょう。これが即ち「メイクアップ」です。きっと父親は卒業式には万難を排して出席してくれるでしょう。このようにして「ワイズの優先順位(Priority)」を高めて戴きたい。

EMCはCME。まずは「C(Conservation 意識高揚)」で魅力的な例会を充実させましょう。クラブの特性に合った増員計画と、ドロップ防止の工夫をしましょう。そして満を持してM(Membership 会員増強)→E(Extension 新クラブ設立)に傾倒しましょう。

ワイズメンズクラブは7年後の2022年に100周年を迎えます。私はこの機会に現在83クラブを100クラブに、1,530名を2,022名に増員したいと長期計画を作成しました。名付けて “**Y’ S M EN’ S WINDOWS 100 (→2022)**” その感動と満足感を皆様と共に味わいたいものです。

今期、もう一つの試みがあります。「メンバー」を増やすには、源流である「スポンサー」を増やすこと。権威あるブースター賞を少し緩和して、「過去に3人以上のスポンサーとなったワイズ」を「EMCパートナー」として認定し、この方を中心にEMCの輪を広げて戴きたいのです。「EMCパートナー」が増えることが即ち「スポンサー」が増えることなのです。

【会計からのお願い】

今年度も早くも後期が始まり2か月が経ちました。後期の会費をお支払いいただけていない方は、会計までお願いいたします。

